

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2022年
11月28日
第142号



メグスリノキ (ムクロジ科)

園内ではないのですが、学内の駐輪場横の広場で、紅葉が目に入ります。日本原産で、国内にのみ自生する固有種です。室町時代から江戸時代にかけて、日本の民間薬として樹皮を煎じて洗眼薬とし、眼病の予防、治療に用いていたことから、「目薬の木」の名がついたそうです。メグスリノキは、カエデ属に属していて、カエデの葉は掌状のいわゆるモミジ形の単葉ですが、メグスリノキの葉は三小葉からなる複葉で、葉だけ見るとカエデの仲間らしくありません。薬用としての採取時期は、樹液がよく動いている春から初夏で、樹皮を剥ぎ取り乾燥させ、煎じて洗眼液としたり、内服します。かつて、星薬科大学でメグスリノキの成分、薬理研究が行われ、同園のWebページで詳しく解説されています。樹皮に、かつて美白成分として利用されて白斑形成の被害を起こしたロドデノールを含むので、使用時は注意が必要です。

マルバヒイラギ (モクセイ科)

生協カフェテリアのすぐ前の森で、よい香りのする白い花がいっぱい付いている低木があります。台湾と日本に分布する常緑広葉樹であるヒイラギの園芸品種です。ヒイラギは葉に棘があり、古くから邪鬼の侵入を防ぐとされ、防犯目的に庭木として植えられています。この品種は葉が丸いので、その目的ではダメですね。日本では、節分にヒイラギの小枝と焼いたイワシの頭を門戸に飾って、魔除けに使ったりします。ヒイラギの樹皮、枝葉は、中医学では香木箇桂（コウボクキンケイ）という生薬となり、補肝腎を目的に腰膝を強くするために用いたり、煎じ液を外用で消毒薬として使用するそうですが、この品種も使用できるかどうかは、調べきれませんでした。